

平成28年度 南三陸町総合戦略推進会議(第3回)	
日時	平成28年11月28日(水) 18:30~21:00
場所	南三陸町役場庁舎2階 大会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 挨拶</li><li>3 協議等<ol style="list-style-type: none"><li>1) 南三陸町総合戦略の一部改定について</li><li>2) 平成29年度事業の進捗状況について</li><li>3) 平成29年度事業の総合戦略見直しの方向性について</li><li>4) その他</li></ol></li><li>4 その他</li><li>5 閉会</li></ol> <p>&lt;資料&gt;</p> <p>「第3回 南三陸町総合戦略推進会議 次第」</p> <p>「南三陸町総合戦略【平成28年度改定版】(案)」</p> <p>「南三陸町総合戦略施策一覧(平成28年度KPI中間達成状況確認用)」</p> <p>「南三陸の森・里・海とラムサールシンポジウム チラシ」</p>
出席	委員(敬称略): <出席:13名> 安藤仁美(住)、小山祥子(住)、高橋未来(住)、渡辺公子(住)、伊藤孝浩(産)、 稲本都志彦(産)、及川美香(産)、小野寺邦夫(産) 佐藤克哉(産)、 高橋直哉(産)、最知明広(官)、佐藤太一(学)、重富裕昭(言) <欠席:3名> 齋藤めぐみ(住)、及川貢(労)、相楽・敏(金) 事務局:5名(阿部課長、檀浦室長、太齋係長、阿部主査、松本主査) 傍聴:2名 マスコミ:1名

## < 1. 開会 >

## < 2. 挨拶 >

会長挨拶：

第 3 回目の会議にお集まりいただきありがとうございます。

前回は台風で延期となり 9 月に開催した。

直近の話題として、移住者・U ターン者向けに仮設住宅の一部提供や災害公営住宅の一般募集など、少しずつ前に進んでいる。

今回は総合戦略の一部改定ということで忌憚のないご意見を頂戴したい。

## < 3. 協議 >

### (1) 総合戦略の一部改定について

●事務局より、資料を用いて説明。

前回会議のご意見をもとに、改定案を整理した。

- ・プラットフォーム→プラットフォームへ語句の修正
- ・創業者数→町の制度を活用したを追加
- ・無料職業相談所相談者数→相談者数
- ・KPI 基準値 年度に統一し数値を修正
- ・移住総合窓口の設置→～の設置等 お試し移住、空き家バンクを項目別立て
- ・住宅取得時の租税減免→～の経済的支援
- ・南三陸応援団登録者数 累計表示の削除
- ・追加 育児休業制度等の取得促進・町内企業への働きかけ
- ・追加 修学資金の貸付け制度 (既存)
- ・おらほのまちづくり補助金 総合戦略枠仮称を正式名称に
- ・地域資源プラットフォーム 文言の整理
- ・ホームページ閲覧者数→ページビュー数
- ・追加 裏表紙改定記録

会長：何か意見は？

委員：特になし

### (2) 平成 29 年度事業の進捗状況について

●事業中間評価として、平成 28 年 10 月 31 日現在の KPI 達成状況について、事務局より資料

をもとに、基本目標部分について説明。

会長：とりあえず、基本目標の部分で質問はあるか？

委員：カッコ内の値の意味は？

事務局：平成 27 年度からの累計値である。

委員：創業件数 3 件はどのような業界か？

委員；応募は何件か？

事務局：資料を用意するので、後程お答えする。

委員：転入者の実数はいくらか？

事務局：後程お答えする。

会長：年度か年次か？

事務局：年度である。

●事務局より基本目標の施策について、平成 28 年度の KPI 達成状況を説明。

委員：UI ターン者雇用促進奨励金など各制度の周知は行っているのか？

事務局：町の広報での周知は行っている。

委員：HP ビュー数の時系列集計はできるのか？

事務局：月ごとの集計などは可能。

事務局：先ほどの創業件数に関わる企業支援金の採択案件について、一つは薬物野菜、そして美容関係、公告・企画事業であった。申請は 5 件。

委員：災害復興住宅の空き室は埋まったのか？

事務局：名足地区の戸建てはまだ埋まっていない。

会長：被災者が改めて応募して入ったというのはどういう状況か？

事務局：一度自宅再建を考えていた方が、災害公営住宅入居者の一般募集の際に応募してこられたもの。

会長：これまで様子見をしていた方が、一般募集したのを見て決めたということはあるかもしれない。

会長：事業所訪問した際、定住促進住宅等の募集について、40歳以下という要件に疑問を呈されたということがあった。町としては人口ピラミッドの形を持続可能なものにしなければならないという説明をしたが、現状として働き手を募集しても40歳以下では集まらないということがあるようだ。

委員：その年齢でも子ども連れという人はいるのでは？

会長：現実的には、それ以上の年齢だと単身か子どもが手を離れたご夫婦ではないか。

委員：議論の蒸し返しになるかもしれないが、ヨーロッパでは、田舎に住みたいというリタイア世代が入ってうまくいっているところがある。そこでは一定のルール、例えば年収がいくら以上の方を受け入れるということをやって、消費者としても支えてもらっているようだ。先日、雄勝にいったが、高台で眺めがきれいな宅地があった。このような場所は“ウリ”になるはずで、こういったところに住みたい方はいる。この世代も捨ててはいけない選択肢だと思う。

委員：その部分は町としてやることではないという整理で、よほど気に入れば、来ていただければよいと思う。

委員：町として（移住政策で）支援する対象ではないということ。

会長：現実問題、介護施設もいっぱい状態であり、施設整備も現実的ではない。地域の中での介護という地域包括ケアの方向性も示されているが、現実には、若い世代は要介護者を施設に預けて働きに行かざるを得ない。もちろん、年金以外の収入がある裕福なお年寄りもいるだろうし、その辺を選択肢に加える手はあるかもしれない。

会長：直近の話題としては、志津川高校魅力化の懇談会を開催した。すぐに答えが出るわけではないだろうが、今の中学生や保護者がなにを考えているのか、アンケートを取るようになった。

委員：別に学校評価のアンケートがあった。適切な指導をしているかという項目に「そう思う」

とは○をつけられなかった。がんばっている子どもたちに「どうせできないだろう」というところから始める。例えば修学旅行の行程表の案内が来ない。学校では渡されたが、「お前たちどうせなくすだろう」と言われ回収された。小中学校では、「お前たちががんばればできるよ」といわれ育てられてきて、高校に入ったら「どうせできないだろう」というやる気をなくすような態度が見られる。下の子の進学について、考えることがある。

委員：志津川高校からバスが寄贈されるが、高校生が6年かけてモアイバッジを売って作ったお金だ。代々受け継がれた活動を見ると、指導者や目標の与え方で全然違うということを目の当たりにした。

委員：学力だけでいえば、志津川高校でも大学に行く分には十分であると思うが、学校生活が楽しいかと言われれば、楽しくないという。

委員：世の中全体が楽しい高校生活が楽しくなくなっている。自分はたまたま個性的な先生がいた学校に行って、大変楽しかった経験があるが、先生方は2～3年で変わるし、情熱を持った先生もいなくなるし、制度的な問題ではないか。歴史がある高校なので、もったいない。

会長：私も卒業生であるが、どこに原因があるのか、生の声を聴く機会が必要であり、その手始めとして今回アンケートを実施する。

委員：学生時代、楽しいか楽しくないかで戻ってくるか来ないかに影響する。楽しくない場には、戻ってこないと思う。

委員：7月に高校で講演させていただいた。海のことや町で面白いなと思うことを話した。アンケートをもらい、漁業をやりたいという声ももらった。町民が先生となり、生徒の意見を聞くことも面白いと思う。

会長：町長も毎年講演している。

委員：卒業生が講演するのは、子どもたちにとって本当に効果がある。イギリスのパブリックスクールのすごいところは、世界で活躍している人が来て講演することだ。志津川高校でもしょっちゅうそういったことをやっているというのは、すごく良いこと。

委員：残念なことに、いろんな良いことをやってはいても、そこを消されてしまう不満やなんでこうなんだろうというところがあり、中高連携では中学生に高校生が楽しそうかそうでないかが見えてしまう。

会長：今は取り組みが始まったばかりである。アンケート結果が出たら皆さんにも共有する。

委員：師匠登録の制度だが、これは具体的にどういうことになっているのか。林業では指導林家という制度があるが、農業や漁業でもあるのか。

事務局：同様に認定農業者、認定漁業者の制度がある。相談件数が少ないこともあり、なかなか担当が動けていない。制度を活用することを前提としている。

会長：実際には制度もあるし、I ターンで漁業している人もいるかもしれない。個々人同士ではすでにやっているかもしれないが、行政と絡まっていない。役所の人間が机で仕事していないで現場に行って話を聞けというところもある。それが一番効果があるとは思いますが、現状ではなかなかできていない。

事務局：担当がこういった場に来て、直接皆さんとお話しする機会も必要ではないかと思う。

～ 10 分休憩～

会長：会議を再開する。

委員：先ほどの転入・転出者数は。

事務局：正確な数字を精査する必要があるが、概数で転入者 160、転出 260 であった。転入には、U ターン者も含まれるが、内訳まではわからない。

事務局：町 HP のページビュー数については以下のとおり。

4 月	120,007	8 月	125,339
5 月	118,093	9 月	115,458
6 月	129,116	10 月	108,545
7 月	118,636		

委員：観光協会は月 10 万件程度、南三陸なうは 1 万件程度だ。

委員：昨年度の傾向も同様か。

事務局：そうであった。

委員：発信強化については、方策検討中とあるが、HP のリニューアルを行う予定はあるのか。

事務局：今後分かりやすくすることを考えている。

事務局：移住サイトは別に作りリンクさせている。もう少し進化させていく予定である。

委員：実際に空き家はあるのか。

事務局：ないわけではないが、実際にすぐに使えるとなると難しいのではと考えている。

委員：実際に築 100 年の空家もあり、リノベーション講座を開いて活用する方法を考えている。

委員：旭ヶ丘団地も築 30 年となり、直すときに住みながら直すか、別に借りるか悩ましい。

委員：空き家を借りるときに、町内に不動産屋があまり機能していないので、借りる契約が難しい。改修にもお金がかかるし。

### (3) 平成 29 年度事業の総合戦略見直しの方向性について

会長：(3) について、事務局より説明を。

事務局：来年度は改定の時期となる。戦略策定から実質 1 年しかたっていないが、例えば最新の国勢調査結果が出る時期でもあるので、人口ビジョンについては数字の見直しを考えている。総合戦略自体をどうするかご意見をいただきたい。このままでいくのか、あるいはこの部分は入れた方がよいなど。

委員：結婚支援は考えたほうが良い。

会長：戦略策定時の議論では、町がやるべきことかという結論となったと思う。

事務局：全課に議論は政府が支援する結婚時の引っ越し費用についてで、これは特に必要ないと結論になった。

会長：おらほのまちづくり補助金にも地方創生枠を設け、出会いの場などの事業が出てくればすぐに支援しようという話はあったが、結局その事業が出てこなかった。

委員：独身男性で結婚しない人は町内にたくさんいるが、女性陣はどうかというところでもない。

委員：仙台のベニ婚（ベニールランドでの婚活イベント）はすぐ埋まるらしい。

委員：都会はそれでやれるが、この辺は知り合いの知り合いはみんな知り合いなので難しいので

はないか。

委員：以前企画したものの、参加希望者は全員男性で成立しなかった。

委員：大田区で新婚世帯に限り入れるマンションがあり、それがあから結婚した友達がいた。

委員：結婚奨励金を出すとか。

委員：独身の男女しか入れない住宅をつくるとか。

会長：子育てクーポンなどの手は打ってきたが、その以前の出会いの場がないということにてこ入れするのも一つの手ではあると思う。以前は仲人奨励金という制度があったが、今は仲人をたてることがなくなったので、制度自体辞めた。

委員：同じ方向性で移住促進奨励金があれば、そそのかそうと燃えてくる。住民税 10%引きなどもいい。

会長：結婚奨励金の話が出たこともあるが、もともと個人の問題なので、行政としては否定的だった。生まれる前に出すか、生まれてから出すかという問題かもしれない。

委員：結婚の支援について総合戦略に掲げるとするのは、知ってもらうためにも必要かもしれない。

委員：戦略に入っていれば、おらほのまちづくり補助金の採択基準になるかもしれない。

事務局：実はおらほのまちづくり補助金の募集時に、例として婚活パーティーの開催なども書いてあったが、事業提案がなかった。

委員：以前に神割崎で婚活パーティーをやり成約したカップルがいたと思う。

委員：結婚は奨励金をもらうためにするものではないと思うので、母数を増やすという意味で移住奨励金は良いと思う。

委員：地元の人がその気にならないと難しい。

委員：町ではやって欲しいと思っているのであれば、外部団体に委託事業を考えるのも必要なのではないか？



会長：結婚については、総合戦略では直接うたっていないので、書くのも一つの手かもしれない。

事務局：国の支援があるのは引っ越し代のみであり、あとは手出しとなる。どこでどのように決めるかについても議論する必要がある。

会長：次年度も最低 3 回は会議がある。これまでみんなでいろいろ議論してきたので、総合戦略のベースの部分を変えて大きく変える必要は無いように思う。問題は、これに何を入れ込んだり、削除したりするかだと思う。それによって会議を増やすということはある。

委員：生み育てる総合窓口の設置における相談内容を、総合戦略に反映させるということもいいのではないかな。

委員：テーマごとにガッツリ話し合うのも良いのではないかな。

委員：制度設計中のものについての現状把握や進捗状況のチェックも必要なのではないかな。

会長：行政の担当から直接説明が必要かもしれない。

事務局：担当は、事務局を通してしか認識していないので、委員の皆さんに思いなどが伝わらない部分もあるのかもしれない。

会長：3 年目なので、会議の回数は少し多めにしたほうが良い。委員の任期は 2 年であるが、再任は妨げないので、事情により参加できない場合を除き、委員の皆様には是非次もお願いしたい。

事務局：人事異動もあり、担当も変わるので、是非こういったやり方であればご意見いただきたい。人口予測についても今はリアルタイムでモデルをいじれないので、見えるようにしたいとは思っている。KPI も設定はしたものの、それがどう仕上がりに反映するかについては、ブラックボックスの部分もあり苦しいところもある。

会長：単年で判断するというのも難しいところがある。  
進め方については従来のままでよいか。

委員：ホワイトボードを囲みながらディスカッションする今のスタイルが良いと思う。

委員：ファシリテーターを残してほしい。変な方向に持っていかれるような会議では困る。

会長：問題は人口ビジョンぐらいかな。

事務局：委託費の積算をしたうえで検討する。

会長：来年度は基本的には今年度同様のスタイルで、会議の回数も増やして、一つひとつ掘り下げて議論を行うこととしたい。

事務局：来年度については、年度が改まってからご案内したい。回数を増やすこととなれば、2カ月に一変程度のイメージとなる。

会長：皆さんとは、半年後ぐらいに顔をあわせることとなると思うが、その間に細かいことを詰めて皆さんにご提示したい。

(4) その他

特になし

**< 4. その他 >**

● 12 / 18（日）に開催するラムサール条約湿地登録へ向けたシンポジウムについて情報提供

**< 5. 閉会 >**

会長：以上を持って本年度の会議はすべて終了となる。皆さんには良いお年をお迎え頂きたい。